

西武新宿線立体化で

区長らが都に要望書

練馬区

練馬区の前川耀男区長は1月29日、区民らとともに都庁を訪れ、西武新宿

線の区内区間（井荻駅～東伏見駅付近）の連続立

体交差事業の早期実現を

求める要望書を提出した。

要望書によると、同路

線の区内区間には踏切が13カ所あり、渋滞や地域の分断などが課題となっている。この区間は都市計画道路5路線と交差し、このうち外環道

の地上部街路（外環の2）が昨年11月に都市計画の変更が決定されたことを受け、立体化の早期実現と沿線地域のまちづくりへの支援を求めた。

前川区長は「西武新宿線の沿線住民はもちろん、区民にとって長年の悲願。立体化を前提とした外環の2の都市計画変更決定を機に、都として立体化に取り組んでもらい、区としてもまちづくりを積極的に進め、力を合わせて頑張りたい」と語り、安藤立美副知事に要望を手渡した。安藤副知事は「鉄道立体化は大きな課題で、西武新宿線も大事な路線と承知している。外環の2と併せて立体化に取り組み、区と連携して進めたい」と述べた。